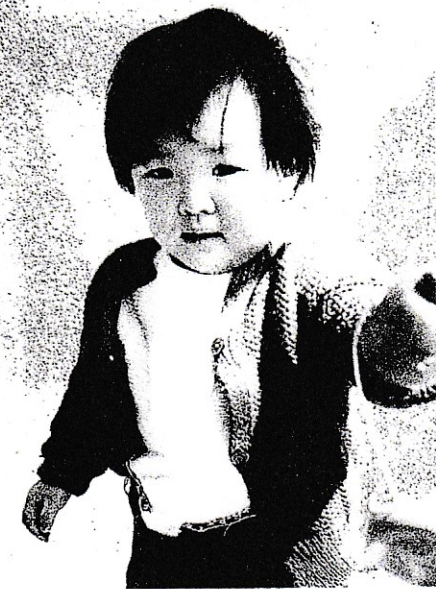


わが心の自叙伝

菅原洋一

.....▷16

「ババ(頑張って)」
と言っていたこ
ろの歌織



だりした。
発売2年後、1967(昭和42)年6月、売り上げ25万枚突破のパーティーが開かれ、9月26日には「知りたくないの・ヒット記念」のサブタイトルが付ければ、大手町のサンケイホールで第1回のリサイタルが開かれることになったのだ。そのときはすでに80万枚を売り上げていた。むろん、中南米にいたこの喜びに浸ることはなかったらう。

た。

アンコールはもちろん「知り

つていた娘と離れ離れになつてもいいの。結局私は、演奏旅行の話を断念した。
今考えればそれが運命だったのらう。ちょうどスタートしたばかりの有線放送から、私の歌が流れ出すのだ。「恋心」ではない。B面の「知りたくないの」である。私が「売れてきたのかな？」と思つたのは、専属出演中の東京・品川のホテル高輪にあるナイト・クラブ「トロピカル・ラウンジ」に来たお客さんから、「知りたくないの」を歌うと「それはなんていう曲？」と質問され、「いい曲ね。もう一度歌って」とリクエストが集まるようになってからだ。そのうち「ああ、この歌うたっ

ているのはあなただだったの？」、しまいは「ええ？ てつきり裕ちゃん(石原裕次郎)だと思つていた」なんていう、こそばゆい声まで聞こえてきた。

たお客さまですよ」と。身震いが止まらなかつた。生まれて初めて人気というものを実感した瞬間である。それを聞きつけ、レコード会社はあらためて「知りたくないの」をA面にしたレコードジャケットを作り始めた。ところが間に合わないほどに売れ出し、ジャケットは「知りたくないの」がA面扱いなのだが、レコード盤のほうは相変わらず「恋心」がA面という手がハグなレコードが店頭に並ん

た。客席から大きな拍手とともに、なぜだか「ババ、頑張って！」という声が聞こえてきた。それはまぎれもなく3歳の歌織の声だったのである。(すがわら・よういち=歌手)

◆ ヒット記念リサイタル

延期されていた神戸・松方ホールでのコンサートが、4月3日に開催される。久々のふるさと兵庫でのコンサートだ。今から楽しみにしている。
最後のレコードとして発売された「恋心」は岸洋子の歌声で大ヒット、1965(昭和40)年の「紅白歌合戦」で歌われた。岸、越路吹雪とともに競作となつた私のレコードだったが、やはり売れなかつた。
そんなとき坂本政一とオルケスタ・ティピカ・ポルテニアから1年間、中南米に演奏旅行に出向く誘いをいただいたのだ。私は正直、迷つた。レコード歌手としての実績はなく、これからも音楽喫茶で歌を伝える歌手として生きてゆけなければならぬ。ここで一念発起、外国へ音楽修業に出掛けようかと。しかし妻や、やっとなかまり立ちしながら愛嬌を振りまくようにな

こそばれ落ちる涙、大きな拍手